小体育科教育部会

教材の本質をふまえた体育指導のあり方
～走・跳の運動（遊び），陸上運動を通して～

I　研究の内容

1　研究の具体的内容

（1）言語活動を取り入れることにより，走・跳の運動（遊び），陸上運動における思考を高め，さらには技能を高めることにより，目標とする児童の姿にせまれる指導法について研究する。

（2）授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い，今後の授業や研究に活かしていく。

2　授業研究

3年生　「高跳び」（走・跳の運動）

保坂　美礼　教諭　塩山南小

5年生　「ハードル走」（陸上運動）

山田　　浩　教諭　東雲小

（1）授業実践から学んだこと

・3年目の研究として，これまでの研究の成果や課題をいかし，継続研究ができた。
・2本の授業をもとに，授業研究を中心に活動し，テーマに迫ることができた。
・ベテランの先生の授業研究は，陸上運動の特性や技術，授業の流れやねらい，場の工夫，子どもたちへの指導や学級経営などの面において，とても勉強になった。
・デジタル機器等の活用では，発達段階を考慮した新しい試みができたことは，大きな成果の一つとしてあげられる。
・教材の本質をふまえ，「わかる」こと「できた」ことの達成感をあじあわせることを不易のテーマとし，技術論に偏りすぎることなく，発達段階に応じた指導をしていくことが大切である。

（2）授業実践から，今後さらに研究を深めたいこと

・部会内で専門性をもった先生方に実技講習を行っていただいたおかげで，授業者の意図がはっきりしたり，理論研究もイメージを持って深めることができ，とても有効であった。
・専門性を追求するわけではなく，専門性を専門でない教師が，子どもたちにどのように伝えるかが，大切である。技術講習会など，専門的な技術を学ぶ機会が必要である。
・授業を提供していただく先生の負担を少しでも軽くするよう，研究部の協力や，各ブロックでの授業案検討など行うことができた。今後も，共同研究・組織研究であるという意識のもと，資料の収集などできる限りの協力体制を確立していきたい。
・低学年の授業実践を持ち，系統的な研究をしたい。

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・陸上運動の教材研究，指導法について，３年間でさまざまな種目で学ぶことができた。
・言語活動を取りいれた指導や，教え合い・学び合いのための一つのツールとしてのデジタル機器（タブレット）の活用方など新しい試みができ，子どもたちにつけさせたい力が身につけるのに役立った。
・本研究の成果を，全県，全国に発信できたことも大きな成果としてあげられる。

2　課題

・今後さらに高い専門性に触れ，まず学び（部会員），解り易く，よりシンプルに広め（各校・他の先生方へ），より多くの子どもたちにとどけることをめざし，さらに深く研究を進めることが大切であると感じる。
・タブレット等の機器の利用について，より良い方法を考えていく必要がある。
・子どもたちに必要な技能を身につけさせるために，理論を学び，タブレット等の利用や言語活動を仕組むこと，場の工夫など，授業の組み立てを工夫したい。
・集団づくりの要素も，体育科に課せられた重要な要素になっていると思われる。今後も，仲間との交流（学び合い・教え合い）を意識しながら，指導のあり方を研究していきたい。
・この研究を今後，各校の授業実践にいかしていくことがのぞまれる。

（部長　廣瀬　哲也）